

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
M314M101		解剖学 (Human Anatomy)					コース共通専門分野									
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
必修	1	1	医学部先進医療科学科	前期	火2,火3	日本語			単独							
担当教員	氏名 井上 亮 他 E-mail ryo@oita-u.ac.jp 内線 5051															
授業の概要	医療科学では、正常なからだの構造・機能の理解が必須となる。本科目は、からだの構造と機能を生命活動との繋がりの中で修得することをねらいとする。からだの構造と機能は有機的に連関し不可分であることから、本科目及び解剖学実習は、人間の生命活動に関する知識体系を学ぶ科目として位置づけ、本科目では人間の生命活動に関する知識体系の総論として、ホメオスタシス・細胞・組織・外皮系・心血管系・血液・免疫系の詳細、感覚器系・神経系・内分泌系の概要について学修する。本科目の受講を通じて、生命の尊厳についての考えを深めるとともに、医療科学を学問的に探究していくための礎を築いていくこともねらいとしている															
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	ホメオスタシスを構成する重要な要素について説明できる															
目標2	細胞の代謝活動について、細胞の構造と機能・細胞膜での物質の移動・ホメオスタシスとの関連で説明できる															
目標3	からだの内と外とを隔てる皮膚の構造と機能を説明できる															
目標4	心臓・血液・血管の構造と機能および中枢神経と連動した心血管系のシステムについて説明できる															
目標5	外界や体内からの情報を中枢が処理し、指令を発することでコントロールされる生命活動の仕組みについて理解できる															
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)							6			2				2		
授業の内容																
1	生命活動とホメオスタシス(人体発生の概要)															
2	ホメオスタシスの重要な要素: 体液の分類・量・分布、移動															
3	ホメオスタシスの重要な要素: 電解質組成、血漿pH、動脈圧酸素分圧															
4	ホメオスタシスの重要な要素: 浸透圧、血糖値、体温、フィードバックシステム															
5	構造から見た人体: 人体の階層性、体表面から見た人体															
6	細胞の構造(性質と特徴)															
7	細胞の機能: ATP産生、タンパク質合成															
8	組織: 上皮組織、筋組織、結合組織、神経組織															
9	外皮系の構造と機能(含: 非特異的防御機構)															
10	血液の循環とその調節: 心臓の構造と機能															
11	血液の循環とその調節: 血管系とリンパ系															
12	血液の循環とその調節: 血液															
13	血液の循環とその調節: 心拍出量と規定因子															
14	血液の循環とその調節: 循環の調節(神経性調節、液性調節)															
15	感覚器系・神経系・内分泌系の概要															
ラ	A:知識の定着・確認	日々の課題学修、単元毎の小テスト、ポートフォリオ作成				工 夫 そ の 他 の	LMS、動画 *Moodleを活用									
イ	B:意見の表現・交換	発問、バズセッション、学修ルーブリックによるピアビュー														
エ	C:応用志向	Medical Focusを用いた知識の医療への応用、課題レポート														
グ	D:知識の活用・創造	ケーススタディを用いた調べ学修														
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配布授業資料・教科書の確認・動画視聴(毎回1h:計15h)、日々の課題の調べ学修(毎回0.5h:計7.5h)														
	事後学修	授業内容を整理しポートフォリオとしてまとめる(毎回1h:計15h)、単元ごとの小テストの見直し(計5h)														
	想定時間合計	43														
教科書	「人体の構造と機能[1]解剖生理学 第11版」(2022)坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀(著)、医学書院 「カラー人体解剖学—構造と機能: ミクロからマクロまで」(2012)、Martini,F. et al.(著)、井上貴央(監訳)、西村書店															
参考書	清村紀子他編(2014): 機能障害から見たからだのメカニズム、医学書院 *授業展開が網羅されている その他は開講時に提示															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
		学期末試験	100%									
注意事項	Moodleに一括配信した講義資料・教科書を用いて必ず予習し、主体的・積極的に授業に臨むことを期待する。また、解剖学と解剖学実習は連動して展開するので、人体解剖見学実習には必ず参加すること。											
備考	・担当教員変更に伴い講義内容は大幅に変更される予定ですので、事前に内容はあらためて周知します。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の 有無												
教員の 実務 経験	井上、その他先進医療科学科と看護学科の医系教員：臨床実績のある医師											
実務経験を いかした教 育内容	ヒトのからだの構造と機能に関する知識を具体的に解説する。											